



明けましておめでとうございます。「とちぎ協働デザインリーグ」は、平成29年1月で設立10周年となりました。前号に引き続き、三橋理事長に、リーグのこれからの展望について伺いました。

とちぎ協働デザインリーグのこれから
(その2)
理事長 三橋 伸夫

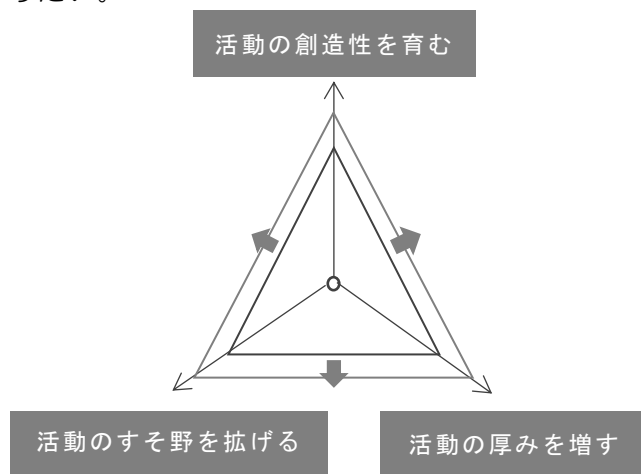
とちぎ協働デザインリーグのこれからのを考えるに当たり、まずは、栃木県の県域センターを管理運営するリーグの立場としては、栃木県政の推進に貢献していくということが基本指針ということになる。県政重点戦略「とちぎ元気発信プラン」(平成28~32年度)によれば、ほぼら(とちぎボランティアNPOセンター)に関する戦略を中心にみると、『人を活かす/多様な能力を活かす』(成果指標は「社会貢献活動参加率」)、『文化・スポーツを通じた人づくり』(同「芸術・文化活動等参加率」)、『個性輝くとちぎの地域づくりプロジェクト/交流と連携によるにぎわいのある地域づくり』(同「地域づくり団体数」)、『人と自然が共生するとちぎの実現プロジェクト/とちぎの豊かな自然環境の保全』(同「企業等の森づくり活動数」)などが上がる。これらはいずれも平成23~25年度の達成見込みで「おおむね順調」と評価されている。こうした成果がほぼらの活動と密接に関連していると考えられ、他にも、子育て、高齢者の支え合い、防災など、

NPO・ボランティアや企業、コミュニティなどの活動に密接に関連する重点戦略(施策)は数多い。

リーグ規約第3条(目的)は、「本会は、まちづくりに貢献するあらゆる個人、団体組織、機関等に対して、自立と協働によるまちづくりの調査研究、支援及び提言を行い、地域社会の発展に寄与することを目的とする。」と謳っている。こうした点を踏まえるならば、リーグの活動理念として、栃木県におけるNPO活動、ボランティア活動の中間支援機関・受託団体として、県内の社会貢献活動の促進に向けて、①活動分野の「すそ野」を拡げ、②活動の「厚み」を増し、③活動の「創造性」を育む、の3点を挙げたい。図で表せば以下のようなものである。

また、県域活動として改めて自覚するならば、第一に、広域性の特長を生かすこと(中核都市、地方中小都市、一般農村、過疎農山村など多様な地域特性、第一次~第三次産業を網羅すべきこと)、第二に、県域センターにありがちな地域からの遊離傾向(広域性の弊害)を避け、情報の受発信及び県内諸地域との連携・交流に努めること、そして第三に、国並びに他都道府県との交流を心がけ、栃木県の特性を常に心にとどめること、を活動の基本姿勢としたい。

昨年10月のリーグ理事会でも、自主事業など様々なご意見を頂戴したが、スタッフ共々忙しい日々の活動の合間にも、知恵を絞って新たな活動分野を開拓し、県内の社会貢献活動の一層の促進を図りたい。



- ①活動のすそ野を拡げる
環境・福祉・教育など/NPO,企業,コミュニティ,行政など
- ②活動の厚みを増す
女性・高齢者・若者など/参加者数,寄付額,協働事例数など
- ③活動の創造性を育む
協働の深化・活動の効果など/多様な主体間の連携など

現顧問藤本信義氏におかれては、「とちぎ協働デザインリーグ」が平成19年1月に設立して以来、平成28年5月までの永きにわたり、リーグ理事長として尽力されました。この度、10周年を記念して、昭和55年、日本で初めてのまちづくりに関するワークショップの導入に取り組みられた藤本顧問に、改めての振り返りと今後の課題について、ご寄稿いただきました。

＜特別寄稿＞まちづくりワークショップ再考

とちぎ協働デザインリーグ顧問 藤本 信義

さまざまな会合、研修会等でワークショップ（以下WSと略）の手法が取り入れられて大分経つ。WSは仕事場・作業場（モノ）を指すが、「個々の参加者（ヒト）が自主的な活動を通して、特定の目的を達成するための集い（コト）」をも指す。簡単にいえばWSは主体的な参加のプログラムであり、1970年代に筆者が助手（当時）として東工大青木研で学んだL.ハルプリン（米）のTAKE PART（参加）は、「集団的創造性」というキーワードがWSの核をなしていた。当時から既に米国では、WSは都市デザインをはじめ、演劇、舞踏、絵画等の制作現場で、単独のリーダーによらない参加者相互のコミュニケーションを通じた合意形成の手法として使われていた。

我が国の1970年代初頭は、それまで20年近く続いた高度経済成長の末期であり、急激な都市膨張による過密と人口流出による農村部の過疎が、成長の負の側面として幾多の問題を引き起こしていた。産業優先・行政主導がもたらす住民不在の地域振興策に抵抗して、全国各地で住民運動が頻発した。これらの「抵抗運動」は、やがて「命と暮らしを守る運動」へ、更に「まち・むらをつくる運動」へと展開していく。若手研究者達が住民の主体的な合意形成を図る手法としての「まちづくりWS」を我が国に適用すべく試みたのは、このような時代背景があったからである。

1980年2月、青木研と、宇都宮大に異動したばかりの筆者によって、我が国では初めてといわれたまちづくりWSが実現した。山形県飯豊町樫地区の1週間にわたるWS「樫講」である。内容は割愛するが、この様子はNHK教育テレビで採り上げられ、スタジオ録画を含め30分番組に編成されて、放映された。

住民参加の具体化を図るこの手法は、その後、人口80万人（当時）を超える東京都世田谷区で注目され、行政職員の3日間の研修テーマとして採り上

げられた。約340世帯しかない樫地区でのスコア（指示事項）を、直接大都市に適用することはできないが、出張所単位で地域振興担当2名ずつ、計40数名が従来の座学研修ではなくタウン・ウォッチングを楽しみ、それを3万人から5万人単位の街に応用していくことを意図した。

一方、飯豊町での実験的なWSは、町内の他地区に公民館事業の一環として飛び火した。こちらの住民参加は樫地区より進んだものになった。まず、地区民に対するアンケートは住民有志が調査票を作成し、集計も手作業で行った。次にWSは分館単位（ほぼ集落単位）で3日から1週間程度で行われ、その成果は地区の全体発表会で公開された。まちづくりWS事始めは、この時期あたりが原点になったといっていよう。

では、これからのまちづくりWSの課題は何か。まちづくりの主体を論じる際には、まず頭の中に三角形を描き、3つの頂点に市民、行政、企業をおく。いわゆる「まちづくりトライアングル」である。加えて、三角形の中央に「まちづくり支援組織」を配する。地域と連携する大学、中間支援を担うまちづくりセンター（市民活動センター）、まちづくりをミッションとするNPOなどが該当する。これらの支援組織から、3つの頂点に向かって双方向の矢印が記される。こうして4者の繋がる三角錐がイメージされるが、まちづくりWSの手法開発が特に求められるのは、いうまでもなく「まちづくり支援組織」においてである。WSはさまざまな分野で気軽に使われているが、ことまちづくりWSに関しては、地域課題を読み込む用意周到な準備と、対象地域の特性に応じた多様なスキルが必要である。その専門性を高めるヒトづくり、コトおこし、モノづくりのあり方については、紙幅が尽きたので機会を改めてふれることにしたい。

平成28年度 主な事業の実施状況

1. とちぎボランティア NPO センター管理運営業務

とちぎ協働デザインリーグの主要な事業であり、多くのボランティア・NPO 団体や関係機関との連携・協働により実施。業務内容は多岐にわたります。

2. 栃木県コミュニティ協会研修等業務

「コミュニティの元気づくり～歴史・文化・自然を活かして～」をテーマに、貴重な資源を地域づくりに更に活かすための方策を探りました。

■第1回 日光市門前カレッジ

「歴史・自然の中に息づく文化とコミュニティ」

日時：9月3日（土）10：00～15：30

場所：日光田母沢御用邸記念公園

協力：NPO 法人日光門前まちづくり

■第2回 大田原市須賀川カレッジ

「人を呼び地域を元気に」

日時：10月16日（日）10：00～15：30

場所：大田原市須賀川出張所

協力：やみぞあづまっぺ協議会

■第3回 宇都宮市ぽぽらカレッジ

「とちぎの歴史・文化・自然を強みに」

日時：12月11日（日）10：00～15：00

場所：ぽ・ぽ・ら

内容：講義、パネルディスカッション、ポスターセッション・交流



3. 栃木グリーンツーリズム推進事業

グリーン・ツーリズムの推進による農村地域への誘客促進を図ることを目的とします。

① グリーン・ツーリズムネットワークの運営

総会の開催、県内のグリーン・ツーリズムに関する問合せ対応や会員募集等、ネットワークの運営管理を行います。

② 調査・研究

- (1) 「食の街道」や「ふるさと田園風景百選」をはじめとする地域資源や地域課題等を整理します。
- (2) グリーン・ツーリズム推進上の地域課題等の対応策をモデル的に調査・検討するため、ワークショップ等を開催し、誘客プログラムを実施します。

■第1回 南那須地方グリーン・ツーリズム検討会

日時：11月17日（木）12：30～16：00

場所：農園民泊「菜花の庄」

■第2回 南那須地方グリーン・ツーリズム検討会

日時：平成29年1月10日（火）

場所：道の駅ばとう

■南那須地方モデルプログラム

日時：平成29年2月11日（土）・12日（日）

③ 情報発信（会員情報充実）

4. 若者の社会貢献活動参加促進事業

若者の社会貢献活動への関心や意欲を喚起し、活動参加を促進するためのイベントを開催し、もって、地域における社会貢献活動の担い手確保・育成を図ります。各地域において活動を支援する組織と若者とが直接出会い、つながりを深める場とします。

■第1回 県央「若者がつくる未来の地域空間」

日時：10月15日（土）13：00～16：30

場所：宇都宮大学峰キャンパス 峰ヶ丘講堂

協力：宇都宮大学地域デザイン科学部

■第2回 県北「出会う！ 見つかる！ ボランティア」

日時：12月10日（土）13：30～16：30

場所：大田原市生涯学習センター

■第3回 県南「見つけよう！ 始めよう！ ボランティア」

日時：1月18日（水）18：30～20：30

場所：白鷗大学東キャンパス



5. 企業の協働参加促進事業

① 企業経営者・従業員向けとちぎ協働セミナー

県内経済団体と協力し、経営者・従業員向けに社会貢献活動やNPO等との協働の意義の説明、事例紹介等を行い、企業の協働への理解促進と参加を促します。

■第1回 栃木明治牛乳株式会社

日時：10月20日（木）10：30～11：30
 場所：栃木明治牛乳株式会社 会議室
 講師：認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房
 常務理事 安藤正知氏

■第2回 一般公募型協働推進セミナー

日時：10月25日（火）15：30～17：30
 場所：栃木県庁 研修館302 研修室
 <第1部>

講演：社会貢献活動、協働で企業を強くする
 講師：三橋伸夫理事長

<第2部>パネルディスカッション

コーディネーター：三橋伸夫理事長

パネリスト：株式会社成文社 小栗卓氏
 NPO法人はばたき 広瀬浩氏

<第3部>交流会



■第3回 一般公募型協働推進セミナー

日時：11月18日（金）13：30～16：00
 場所：栃木県庁 昭和館4階 多目的室4

<第1部>

内容：県内その他の協働事例紹介

<第2部>

講演：企業が社会貢献しNPOと協働するメリット

講師：(有)アップライジング 代表取締役 齋藤幸一氏

② 企業とNPO等との協働説明会

社会貢献活動、協働等に関心のある企業の担当者を対象に説明会を実施し、併せて企業とNPO等との協働事業相談会を実施する。

日時：1月26日（木）12：30～16：30

場所：栃木県庁 研修館4階講堂・402・401

6. 中山間地域元気創出事業

中山間地域との連携に興味のある企業に対し、社会貢献活動に対する意識を高めていただくとともに、意見交換を通して、課題や連携の可能性を見出し出してもらった。

日時：平成29年1月13日（金）

場所：ぼ・ぼ・ら

内容：企業が地域と連携するメリット、事業概要説明、意見交換等

◆2017/1～3月 リーグ関連事業のお知らせ◆

- ・1月26日（木）企業とNPO等との協働対話フォーラム

<第1部>基調講演：発想の転換が生み出す協働と地域活性化への歩み

講師：いすみ鉄道㈱代表取締役 鳥塚亮氏

- <第2部>企業とNPO等との協働相談会

- ・1月28日（土）地域で生かそう！

シニア世代のボランティア！（出前）

- ・2月16日（木）マネジメント強化プログラム④

～助成金にチャレンジセミナー～

各事業の詳細は、ぼ・ぼ・らホームページをご覧ください。

<http://www.tochigi-vnpo.net/> TEL:028-623-3455

新任スタッフ紹介

1月からスタッフ1名が加わりましたので、よろしくお祈りします。

町田 英俊

ワカモノとまちづくりと

happiness



☆編集後記☆明けましておめでとうございます。早いもので、1月20日の大寒を過ぎ、春はもうすぐそこにやって来ています。今年は、とちぎ協働デザインリーグにとって10周年の節目の年。更に気を引き締め、「現場の声」を重視して、事業企画や情報発信の充実強化を図りたいと考えています。本年も、どうぞよろしくお祈りいたします。(K)